

記録挑戦競技会の好走で、関東学連選抜チームメンバーに



走りが変わった。自分は苦手、ライバルたちは得意の下り。桜庭君もできるだけ上体を反らさず、足の回転を上げるピッチ走法を意識し、スピードを上げようとするも、他のランナーとは圧倒的に違った。抜き返されてその差はどんどんと広がり、背中が小さくなっていた。

頑張っても差が開く厳しい状況の中で、中間点を過ぎ、11.7キロ地点の宮ノ下。箱根の風物詩とも言われる沿道からの選手名コールを一身に受けた。「桜庭！桜庭！」の大声援を聞いたときに初めて味わう快感。必死に自分を応援している人たちの姿が目に入ってくる。群衆の中で両親を見つけた。そして日本薬科大学の黄色のノボリ。「自分の大学のノボリが箱根に立っているのは新鮮な感覚」と箱根を走ることが特別なんだと気づいた。

13.8キロ地点の大平台のヘアピンカーブを曲がったときには前は見えなくなっていたが、自分の走りを崩さないように努め、下り終わった残り3キロから勝負だと自分に言い聞かせた。平地が上りを感じると言われる小田原中継所までの残り3キロ。走りを切り替える一方で、「もう終わっちゃうな」という寂しい思いも胸に芽生えていた。そして次走者に襷を渡す。

チームの雰囲気も桜庭君が箱根を経験し、夢ではなく実現しなければならない目標へと意識を変えて練習に取り組んでいる。

厳しい予選会だが、日本薬科大学の順位は26位、

「自分は走り終わってから倒れるような経験はあまりありませんが、初めて走り終わって倒れそうになりました」。

想定タイムよりも約3分近く遅れてのゴール。大声援の中で箱根路を下り終わった後には、足の裏の皮が剥ける寸前、クールダウンも動くこともできないくらい疲弊していた。

## 借りは箱根で返す 次はチームとして出場だ！

「薬大初の箱根ランナーとして歴史の最初の1ページに自分の名前が載ったのは素直にうれしい」としつつも、「ただ走っただけ、次はチームとして出場したい」と胸の内を語る。4月には最終学年になり、主将として日本薬科大学を箱根に連れて行くという思いは、入学時よりも一段と強くなった。後輩たちには、「学連選抜として走るだけでもこれだけ注目されるということ伝えたいし、箱根を走ってみたいと分からないこともたくさんある」と力を込める。

21位、18位と年々力をつけており、今年は「箱根を狙える位置にいる」という。なんといってもチームメイトには桜庭君が「心強い存在」と一目置く、ケニア人の留学生ランナーで昨年の1万メートル学生最高タイムを持つサイモン・カリウキ君という大砲がいる。

そして桜庭君もトラックレースを控え、「春先の関東インカレで他校のエースとも勝負できるようにしたい」とエースとしての自覚をのぞかせる。個人の目標として5000メートルでは13分台、1万メートルでは28分台、ハーフマラソンでは63分台までレベルアップし、次の箱根駅伝は上り坂に強い自分の特性を生かし、最難所の5区に挑戦したい考えだ。

横峯英実コーチは、「桜庭が主将になって改善点などもチームメイトに伝えてくれている。彼の色が出るチームになってくれたら」と期待する。不完全燃焼で終わった初めての箱根駅伝。でもドラマはまだ続く。母校の襷をチームのみんなとつなぐため、厳しい予選会を突破し、薬科大学初の出場権をつかみ取る。



次の箱根に向け、仲間たちと汗を流す

全国  
238店舗

## 調剤もキャリアも。イオンで広がる活躍の場

キャリアパスに合わせて「地域限定」「エリア」「全国」  
3つの人事コースを選択可能！

ライフスタイルを支える福利厚生制度も充実しています

**AEON**  
イオンリテール株式会社

全国各地で会社説明会開催！  
マイナビ2018、めでいしーんねっと2018より  
エントリーお待ちしております！

